

## ■技術なんでも相談・関連資料

今後の設計や騒音対策に資するように、現地調査等を行い、種々の検討を踏まえ、対策を講じました。その一部を写真でご紹介します。

東北農政局平鹿平野農業水利事業所 所長 有森 正浩

・既設の水クッション型の落差工です。地区内の既設落差工の多くはこのタイプです。

今まであった落差工の単なる改修であり、新たな音源を設けるわけではないので、特別の騒音対策はとっていませんでした。



・改修工事では、タイプ別の工事費経済比較も行い跳水型を採用していました。

改修後、比較的騒音量が小さいとされる跳水型であるにもかかわらず、上流側の近隣住民の方々から、今までより騒音量が大きくなったという苦情が寄せられました。



・そのため、緊急対策として落差工区間に蓋をして暗渠化し、出入り口にゴムシートを垂らし騒音が広がらないように工夫しました。

上流側水路沿いで最高 75 デシベルあった騒音が 60 デシベルを少し上回るレベルまで低下しました。



・今後の設計に資するため、騒音計を用意し落差工を中心に、周辺の騒音の大きさと分布を測定しました。

その結果、水クッション型の落差工の騒音は、落差工地点では跳水型よりも大きいですが、上流側に伝わる騒音で見た場合には、水クッション型の方が跳水型よりも小さいことが示されました。

